様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：３４４１５
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３６００８２

研究課題名（和文）日本型ダークツーリズムの確立と東北の復興を目指して

研究課題名（英文）Building the concept of Japanese-type dark tourism and recovery in the Tohoku Area

研究代表者
井出　明（IDE, AKIRA）

追手門学院大学・経営学部・准教授

研究者番号：８０３４１５８５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：この３年間で、一般にはあまり知られていなかったダークツーリズムという名称と概念が広く知られるようになり、研究の認知度は飛躍的に高まったといえる。また、学術界においてもダークツーリズムの名を冠した研究会や研究プロジェクトが見られるようになり、研究の深化も進んだと言ってよい。研究メンバーも、アカデミックのみならず一般社会への研究のアウトリーチにも心を砕いてきた。３年間の成果としては、「日本型ダークツーリズム」と言う概念が、慰霊や共感に軸足をおいたもので、これをヨーロッパに対してもっと強力に発信していくべきではないかという確信を持つに至った。

研究成果の概要（英文）：In the past three years, the previously unknown names and concepts of dark tourism have become widely popular, implying a dramatic increase in the awareness of research. Moreover, in academic societies, research groups and projects addressing the concept of dark tourism have emerged, thereby promoting in-depth studies. Researchers have also struggled with research outreach; namely, to extend their audience to not only academics but also the general society. Consequently, the concept of “Japanese-type dark tourism”, which is memory and empathy oriented, has emerged, and I am confident that this can be effectively applied to Europe.

研究分野：観光学

キーワード：観光学　地域マネジメント　ダークツーリズム

１．研究開始当初の背景

（１）2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の発生およびそれに続く福島第一原発の事故を受け、観光学の領域においても、震災復興にコミットメントできないかという機運が高まっていた。また、20 世紀末にイギリスで提唱されたダークツーリズムの概念と方法論は、当時世界中に拡散中であり、日本にも断片的に波及しつつあったが、研究代表者の井出はこのダークツーリズムの実態を見極めた上で、日本式にアレンジして導入することで、災害からの復興に貢献できるのではないかと考えるに至った。

（２）　また、研究開始当時は、思想家の東浩紀氏が「福島第一原発観光地化計画」を発表した頃であって、研究代表者である井出は、東が率いる研究会のメンバーとして学術面から当該研究を支える可能性を探っていた。そのための理論的な方法論としてダークツーリズムが強力かつ有効に機能することが推定できたため、学問的にこの対象を掘り下げてみることにした。

２．研究の目的

（１）ダークツーリズムと言う概念は、20 世紀末にイギリスの研究者であったジョン＝レノンとマルコム＝フォーレーによって提唱されたが、たしかにその言葉は世界を瞬く間に席巻したものの、あらゆる地域で普遍的にその概念を受け入れられたのかと言えば、そこにはやはり民族や文化の差異に基づく受け取り方の変化があり、極東の観光大国である日本の視点からその内実をしっかりと考察する必要があった。

（２）また、我々日本人は、ヒロシマ（広島）とナガサキ（長崎）の被爆の経験を持ち、これらはダークツーリズムの代表的な教科書に必ず取り上げられているので、日本におけるダークツーリズム概念を整理しておくことは、この分野の研究を国際的に展開させる上で必須の条件であったと言えよう。さらに、環境汚染としてのミナマタ（水俣）や放射能汚染地としてのフクシマ（福島）も海外の概念では当然ダークツーリズムの対象として認識される以上、日本でダークという言葉が気に入らないからと言ってこの概念を無視することは学術的な態度ではないと考えられた。それ故、「日本型のダークツーリズムとは何か」という問題提起に対して、日本人として説明できるようにしておくことは当然要請されるわけで、こうした需要に応えることも本研究の目的の一つであると言える。

（３）研究メンバーとの兼ね合いで考えてみると、本研究を開始した当時は、ダークツーリズムには経済的な意義は乏しく、趣味的なものにすぎないという論調が強かったが、こうしたステレオタイプな議論に挑むことも必要であった。

３．研究の方法

（１）観光学は現地調査が重要であるため、いろいろな機会を捉えて、実際にダークツーリズムポイントを訪れ、単に見聞を広めるだけでなく、理論的な深化を試みた。

（２）たとえば、水俣と福島は 3.11 の直後より、主として水俣の関係者から将来において類似した社会構造になることが予想されていたが、実際に現地を訪れ、比較検討を行うことで、そうした将来予測の言説の確かさについて、確信を持った議論ができるようになった。

（３）また、本研究チームのメンバーは、オーソドックスな観光学を基盤にしながら、それぞれ情報学・経済学・民俗学などを専門分野にしているが、たとえ対象が同じであっても他分野から観察すると全く違うものの見え方がするため、そこには新しい発見があるはずである。こうした問題意識に基づき、共同研究者感で十分な啓発がなされるように、セッションの機会も意識的に持つようにしたことも本件研究プロジェクトの特徴である。

（４）さらに、次節４（３）でも触れるが、他分野の研究者とのコラボレーションが実現したため、オリジナルの共同研究者の視点に加え、さらに多面的に対象に接近することが可能になったことも本研究の特筆すべき特徴である。

４．研究成果

（１）本研究の成果は、広範囲に広がった。まず、経済面からの考察であるが、ダークツーリズムが単なる趣味的な営為ではなく、地域経済の活性化効果があることも広く認識されるようになった。また、文化・社会・民俗によって人間の死や悲しみの捉え方に違いがある以上、ダークツーリズムには様々なバリエーションが有ることも改めて意識することになった。

（２）さらに、被災地との関わりであるが、地道な研究活動が実を結び、被災地の方々と連携を取る機会が増えてきたことも大きな成果であるといえる。

（３）以下は、予想外の効果であるが、これまでダークツーリズムが直接に効果を持つといえるかどうか不明瞭であった学問分野からの連携の申し出が相次いでいることは、研究メンバーにとって喜ばしく、かつ新鮮な驚きとなった。

（４）具体的には、2015 年に世界遺産化された「明治日本の産業革命遺産」について、メ

ディアからダークツーリズムの観点に基づいた分析を要請されたこともあったし、企業の安全配慮義務をやはりダークツーリズムの文脈から考察することをリクエストされたこともあった。また、売買春等の性的搾取や刑務所等の行刑施設、さらにはハンセン病等の病についても、本概念によって扱いうる射程内にあることが確認された。

（５）こうした研究範囲の広がりと異分野および他分野とのコラボレーションは、学際的に研究を活性化させるとともに、これまで考えてこなかった分野からダークツーリズム概念を取り扱うことになったため、観光学における当該概念の掘り下げと相乗効果を発生させ、研究自体をより深化させるという効果も生み出した。

（６）全体を通じて、3 年間で予定していた研究成果を遥かに超える実績を生み出すことが出来たのであるが、これは様々な偶然に加え、この概念に興味を持ってくれた他分野の研究者の尽力に拠るところが大きかった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 14 件）

① 井出明、ダークツーリズムで観る世界、三田評論、査読なし、1209 号、2017、PP26-32
② 津田康英・麻生憲一、地方創生拠点としての道の駅、経営総合科学、査読なし、106、2017、PP27-43
③ 津田康英・麻生憲一、道の駅の設置と農業生産性効果 -関西５府県のパネルデータに基づいて-、奈良県立大学研究季報、査読なし、27（4）、2017、pp47-61
④ 井出明・須藤廣・鈴木晃志郎＿深見智、近代化産業遺産とダークツーリズム　産業遺産の光と影を考える、日本観光研究学会全国大会論文集、（簡易）査読有り、31、2016、pp353-356
⑤ 麻生憲一、観光客動態調査から見た奈良県観光の実態、奈良県立大学研究季報、査読なし、26（3）、2016、PP65-76
⑥ 井出明、我々はいかに世界を把握しているのか　-ダークツーリズムの知識科学に対する貢献―、人文科学とコンピュータ、査読なし、113(9)、2016、pp1-4
⑦ 井出明、ダークツーリズムの真価と復興過程　“復興”のさらに先にあるもの、査読有り、13（7）1、2015、pp49-56
⑧ 井出明、世界初のダークツーリズム専門雑誌の創刊について　－DARKTOURISM JAPAN はいかにして作られ、受け入れられたのか-、日本観光研究学会全国大会論文集、（簡易）査読有り、30 号、2015
⑨ 井出明、日本型ダークツーリズムが直面する情報学的課題について、人文科学とコンピュータ、査読なし、CH-106(3)、2015、
⑩ 高野宏康、関東大震災時の食事情、首都防災ウイーク講演資料集、査読なし、2015、PP27-30
⑪ AKIRA IDE、ICT and Dark Tourism2015、e-Review of Tourism Research、査読あり、6、2015、pp. SP04_Ide
⑫ 麻生健一、高山市の観光動向と観光まちづくり、愛知大学経営総合科学研究所叢書、査読なし、45、2015、pp.9-18
⑬ 井出明、ダークツーリズムと情報技術、人文科学とコンピュータ、査読なし、102、2014、pp1-6
⑭ 井出明・田村朋久、ハンセン病療養所とダークツーリズム、日本観光研究学会全国大会学術論文、（簡易）査読有り、29、2014、pp.273-276

〔学会発表〕（計 11 件）

① 井出明、ダークツーリズムと ICT による世界の把握、情報通信学会、2017-2-12、名古屋大学（招待講演）
② AKIRA IDE、Japanese Characteristics of Dark Tourism、IGC、2016-8-21、北京国際会議中心
③ AKIRA IDE、　Dark Tourism and Pokemon Go、IJAS、2017-2-28、エクセルシオールマルタ
④ 井出明・麻生健一・高野宏康、日本型ダークツーリズムの確立と東北の復興を目指して、進化経済学会、2017-3-26、京都大学
⑤ 井出明・八木紀一郎・前川圭一・丹羽良徳、旧・現共産主義諸国の観光動向　もうひとつの聖地巡礼、進化経済学会観光学研究部会・グローバルビジネス学会、2017-3-26、京都大学
⑥ AKIRA　IDE・YOSHIHISA TAMURA、Dark Tourism and Hansen Disease、IGU（国際地理学連合）、2015-08-18、モスクワ大学
⑦ 麻生憲一・津田康英、「道の駅」設置に関する実証分析－内生的効果と外生的効果－、日本交通学会第 74 回研究報告会、2015-08-12、八戸学院大学・美保野キャンパス
⑧ 井出明、ジオツーリズムとダークツーリズム、地域安全学会、2015-05-29、伊豆大島大島町開発総合センター、発表者名
⑨ 井出明、退化的進化とダークツーリズム、進化経済学会、2015-03-21、小樽商科大学
⑩ 井出明、ダークツーリズムとアートマネジメント、アートマネジメント学会、2014-11-29、実践女子大 2014
⑪ 高野宏康、歴史文化の観光資源化における諸問題、進化経済学会、2014-09-19、小樽商科大学札幌サテライト

〔図書〕（計 2 件）

① 渡邊直樹・井出明他、平凡社、宗教と現代が分かる本２０１６、2016、総ページ数 251
② 井出明他、東邦出版、ダークツーリズムジャパン２　産業遺産の光と影、2015、総ページ数 143

〔その他〕
ホームページ等
進化経済学会観光学研究部会
https://sites.google.com/site/evolutionandtourism/home

テレビ出演・監修
2016.9.16 NHK　視点・論点「記憶の承継とダークツーリズム」
2016.7.28 NHK　おはよう日本「ダークツーリズムに注目集まる」
2016.7.14 テレビ長崎「みんなのニュース」
20157.13 NHK 岡山放送局「もぎたて」
2.27 サンテレビ　ニュースポート　ダークツーリズムと記憶の承継

ラジオ
2017.1.5　NHK ラジオ　被災地からの声
2016.3.6. Tokyo FM ニュースタイムライン文明を問い直すダークツーリズム
2016.1.27 荻上チキ　Session22　産業遺産を中心としたダークツーリズムの話題
2015.9.14 ABC ラジオ（オーストラリア）Japan In Focus: Why Japan only accepted 11 refugees last year, another political victory for the PM, Dark Tourism
2015.2.7　NHK ラジオ　被災地からの声
2014.7.25 NHK ジャーナル
http://www.nhk.or.jp/r1/journal/pickup.html
2014.5.28 NHK ラジオ　すっぴん
http://www.nhk.or.jp/suppin-blog/156970.html

６．研究組織
(1)研究代表者
井出明　（IDE,Akira）
追手門学院大学　経営学部　准教授
研究者番号　（　８０３４１５８５　）

(2)研究分担者
麻生憲一　（ASOH,Kenichi）
立教大学　観光学部　教授
研究者番号　（　９０２４８６３３　）

高野宏康　（TAKANO,Hiroyasu）
小樽商科大学　グローカル戦略推進センター　学術研究員
研究者番号　（　４０５９６７８０　）